

基本目標3 絆を深め孤立化を防ぐ地域づくり

(1) 隣近所等での身近な助け合いをすすめる

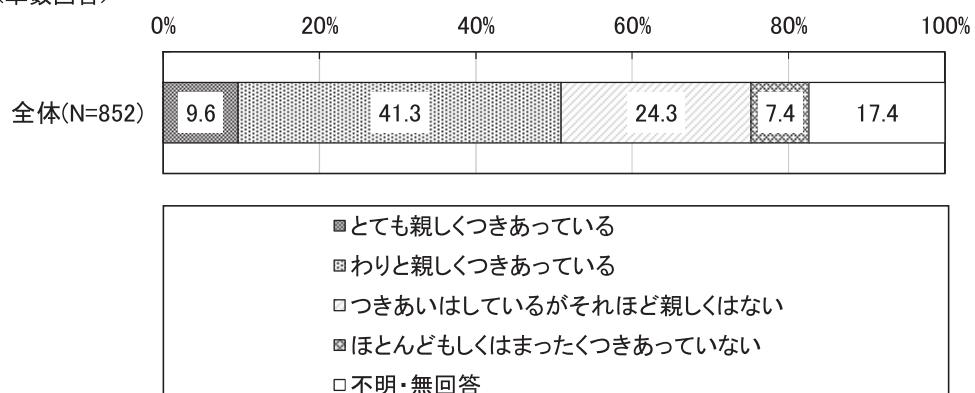
隣近所のかかわりが少なくなってきたと言われる中、近所づきあいは大切との思いが強い様子もうかがえる

住民アンケート

普段の近所づきあいの程度についてたずねたところ、「わりと親しくつきあっている」が41.3%で最も高くなりました。また、地域での人と人とのかかわりに関する考え方についてたずねたところ、「隣近所の人とのつきあいは大切にしたい」が61.9%で最も高くなりました。

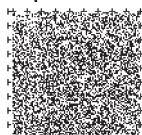
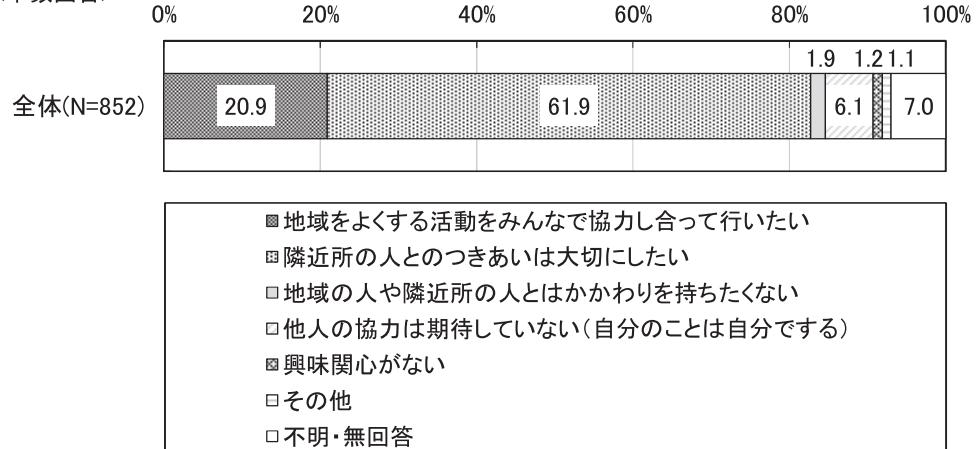
問 あなたは、現在どの程度近所づきあいをしていますか

〈単数回答〉



問 地域での人と人とのかかわりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください

〈単数回答〉



地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「近所づきあいが変わってきていると感じる。昔は誘いあって、分け合って、家族のように付き合っていたが、最近は付き合いが希薄になり、個人行動が増え、孤立している人も増えているように思う」

「地域の人々とのコミュニケーションが低下している。関わる機会が少ないため無関心になるのではないだろうか」

「昔はみんな農業で生計を立てていたので、何をするにも協力していた。外で働く人が増え、考え方も変わってきている」

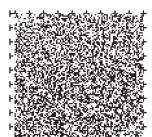
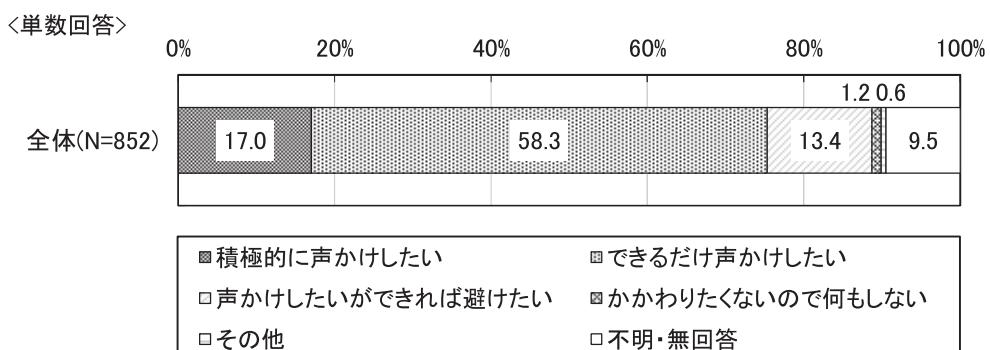
近所づきあいの希薄化

隣近所でのかかわりを深めながら、お互いに支えあい、助けあっていくことが大事だ

住民アンケート

認知症と思われる人がまちの中で戸惑っている様子を見かけたときの対応についてたずねたところ、「できるだけ声かけしたい」が58.3%で最も高くなりました。

問 認知症と思われる人がまちの中で戸惑っている様子を見かけた時、あなた自身はどうのうに對応したいと思いますか



地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「地域ぐるみでお互いに気にかけながらつながりを持つことが、サービス利用や問題の早期発見につながる」

「近所の人で、子どもさんが福岡市に住んでいる。福岡市へ行くときは必ず声かけしてもらう。顔が見えないときは声かけしやすい関係ができている」

「電気がついていないので近所の人が見に行くと倒れていたということがあった。異変に気づいて声をかけ、地域で見守りができたから、助けることができた」

「認知症の課題は家族だけでは解決できない、どうしようもできない。認知症が少しでもあるなら、隠したいだろうけど、一人外出して行方不明になることもあるので、近所の人・地域の人には話せた方がよい。その時にこそ地域での近所づきあい、支えあいが必要」

「地域の人たちには子どものしょうがいのことをわかってもらいたいと思う。伝えることでいいアドバイスをもらえることもあるし、危険な時などは見守りが増えて安心」

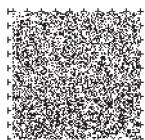
お互い様の
見守り、支え
あい

【高齢者福祉・介護分野】

「地域との交流がほとんどない人は、日常生活で会話をしないことが多くなり、困ったときに頼れる人がなく悩んでいる様子だ」

「若い世代が地域に少なくなって高齢者の独居や二人暮らしが多くなり、以前は地域で行えていた見守りや支援ができにくい地域もあるようだ」

地域住民
間の交流
の大切さ



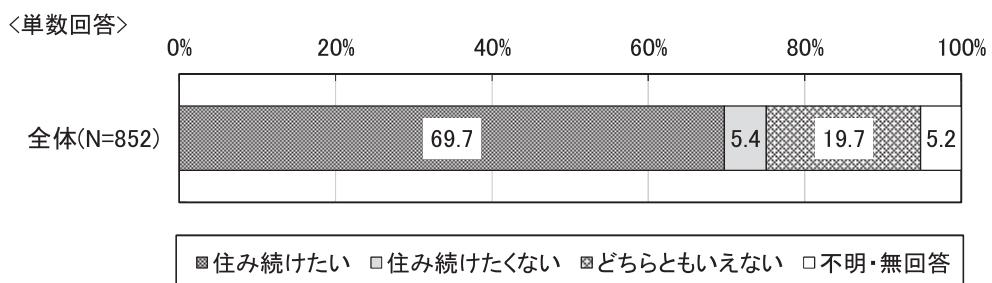
(2) 地域での組織的な支援をすすめる

この地域に愛着を感じ、地域で支えあっていく福祉のあり方を求めている

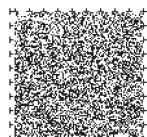
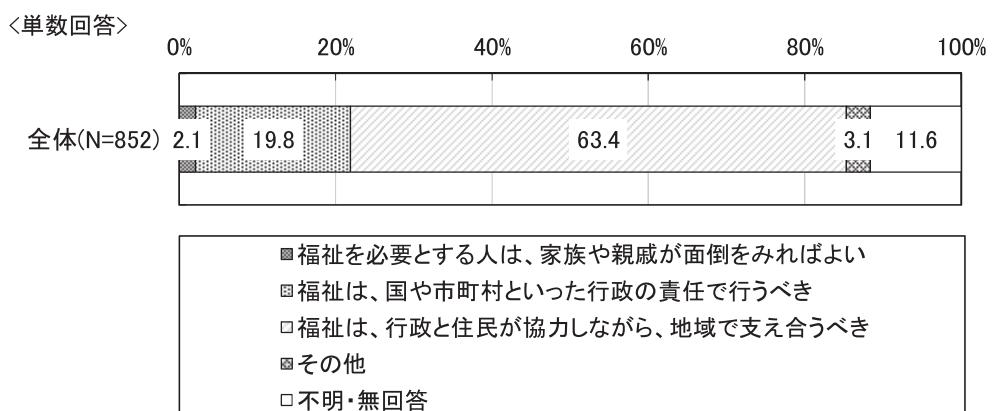
住民アンケート

これからも現在住んでいるところに住み続けたいかたずねたところ、「住み続けたい」が69.7%で最も高くなりました。また、これからの「福祉」のあり方についてたずねたところ、「福祉は、行政と住民が協力しながら、地域で支え合うべき」が63.4%で最も高くなりました。

問 あなたは、これからも現在住んでいるところに住み続けたいと思いますか

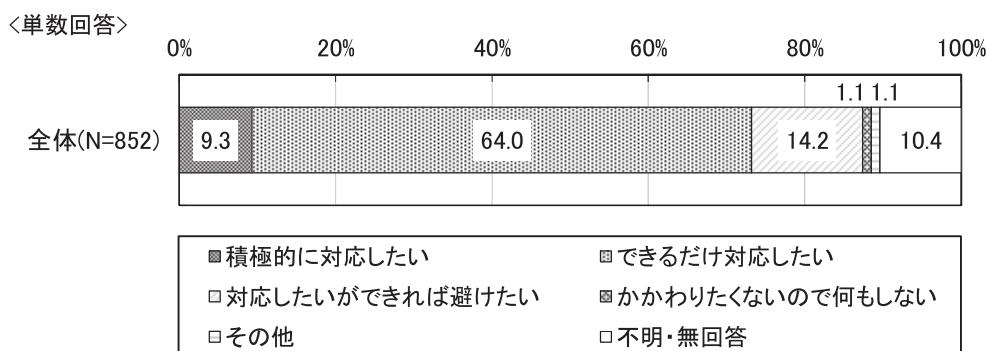


問 これからの「福祉」のあり方は、どのようにあるべきだと思いますか

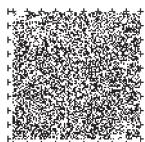
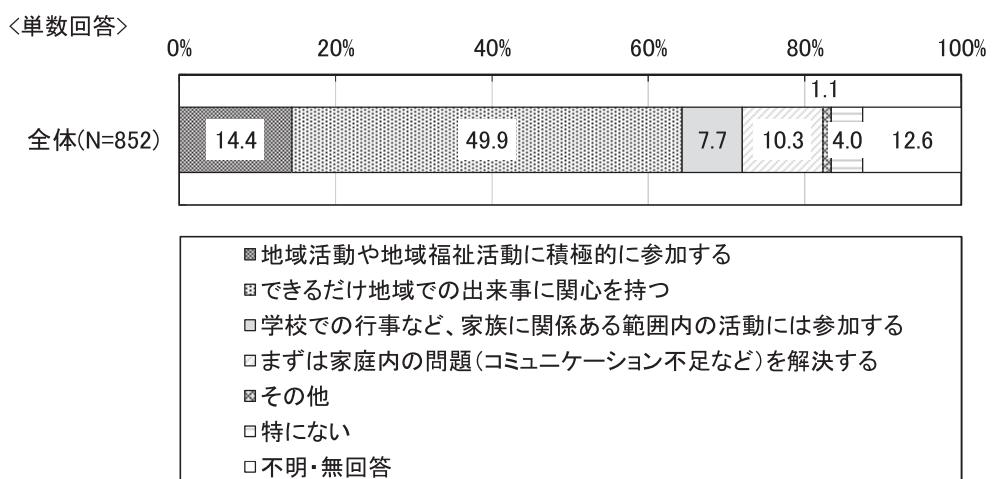


日々の暮らしの中で困り事を抱える人から助けを求められた場合の対応についてたずねたところ、「できるだけ対応したい」が64.0%で最も高くなりました。また、私たち一人ひとりが安心して地域の中で暮らしていくために、住民の一人として出来ることについてたずねたところ、「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」が49.9%で最も高くなりました。

問 日々の暮らしの中で困り事を抱える人から助けを求められた時、あなた自身はどう対応したいと思いますか



問 私たち一人ひとりが安心して地域の中で暮らしていくために、住民の一人として、あなたが出来ることはどんなことがあると思いますか

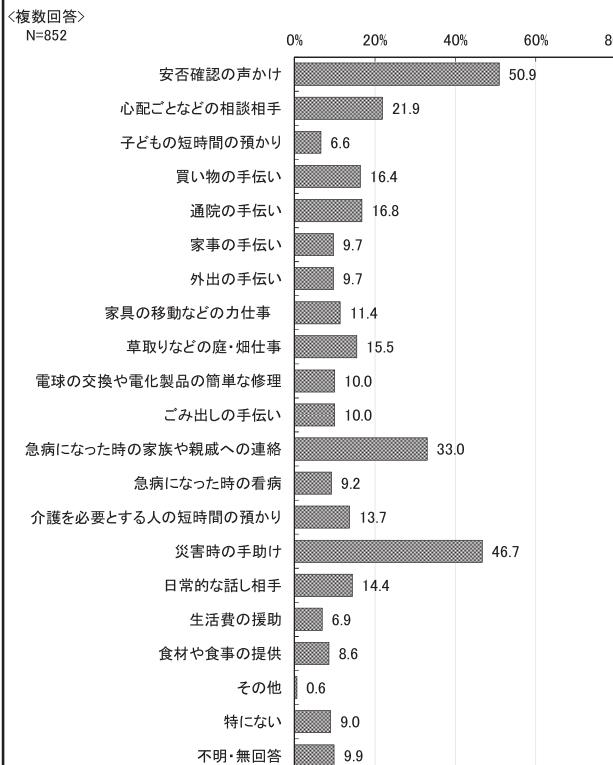


高齢化・独居化が進む中で、支援の必要性と解決方法を明らかにすることが大切だ

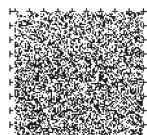
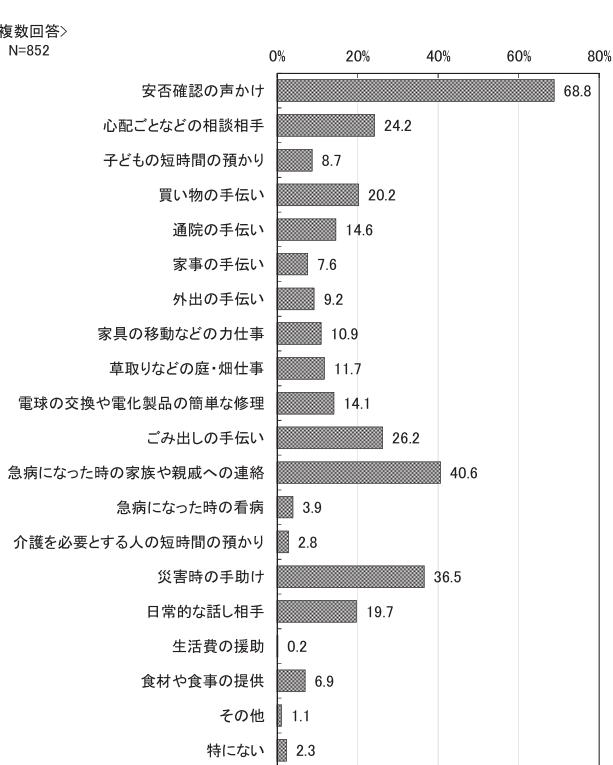
住民アンケート

地域の人たちに求める支援と、地域の人たちに対して出来る支援についてたずねたところ、「安否確認の声かけ」や「急病になった時の家族や親戚への連絡」、「災害時の手助け」などについては、両者共に高くなりました。これらは、地域での支えあいや助けあいが期待出来る取り組みといえます。一方、「急病になったときの看病」や「介護を必要とする人の短時間の預かり」などについては、求める支援に比べると、支援出来ることとしては低くになりました。これらについては、住民同士では難しい取り組みといえます。

問 あなたやご家族に助けが必要になった時、地域の人たちにどのような支援をしてほしいと思いますか



問 あなたの身近なところで、困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援が出来ると思いますか



地域福祉ワークショップ

【高齢者福祉・介護分野】

「高齢者世帯が増え、特に一人暮らしの人々の生活が心配である」

「地域社会との接点がなく孤立していく高齢者が増えていることが問題だと思う。体力低下等で行動範囲が狭まると閉じこもりの始まりになると感じる」

「お年寄りの人を訪問すると喜ばれる。いろんな話をすると話が弾み、また来んねと言ってもらえる」

高齢者への支援

【高齢者福祉・介護分野】

「生活上の小さなことに不安があり、相談相手がない場合、誰に相談していいかわからないときも多い。漠然とした不安を抱えながら生活しているようだ」

「ちょっとした暮らしの中でのできないことをだれにも頼めない。ちょっとしたことが頼めることで高齢者の暮らしは助かる」

孤立を防ぐ、小さな手助け

【生活困窮者支援分野】

「生活困窮に陥っている人自身が様々な理由で地域と距離を置こうとする場合もある。地域から孤立する人を地域社会につなぎとめる方法を地域の課題として考えられる環境をつくることが大切だ」

地域での見守り活動などは、皆で協力し合いながらすすめていくことが大事だ

地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「扈間に若者がいないので高齢者は地域で見て行かなくてはいけない」

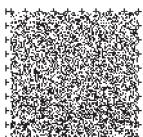
「訪問は一人では続かない。多くの人が関わり、役割を分担すると一人の負担が減る」

「民生委員の担当割が行政区割と違うので、住まいの地区以外だとなかなか状況がわかりにくいことがある」

「民生委員児童委員、福祉委員だけでは難しい。見守り連絡員・区長・班長・隣人みんなで見守る。これを実施されている行政区がある」

「高齢者が増えてきているので、民生委員や福祉委員だけではなく区長も協力していかなければならない」

地域の多くの力で見守り協力



見守りの対象となる人たちについての情報を共有出来る仕組みづくりが大切だ

地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「区長、民生委員、子ども会、消防団、老人クラブが年2回ほど集まり話し合いできれば、お互いの理解と情報共有もできいいと思う。今後の課題」

「隣組長、区長会議に民生委員が出てもらうと情報の共有が出来る。高齢者の情報を一緒に話せると動きやすい」

組織としての連携

【分野共通】

「個人情報の保護について、どこまで共有していいのか、不安が残る」「認知症の人の把握が難しい。民生委員でも個人情報なのでわからない。しうがいをもつ人についても民生委員には情報が入ってこない」

大切な情報を共有すること

特に中山間地域や郊外では買い物のための支援が求められている

地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「近隣にお店がなく離れたお店に行く交通手段もないため、買い物が困難な人が増えてきた」

「買物が一番困るという意見が多い。特に山間部では大変困っているようだ」

「買い物が出来る店が減った。高齢者が頼りにしていた移動販売車も利用者が減り、運行されなくなっている。」

買い物支援が求められている

(3) 災害時の避難に備える

災害時に必要となる様々な対応を想定しながら備えを整えておくことが大切だ

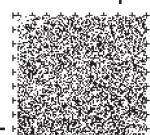
地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「災害時にスムーズな避難活動が出来るよう、地域住民が参加出来る避難訓練を実施することが大事だ」

「民生委員の一人暮らしの訪問は基本であるが、災害のときの助けあいは民生委員だけでは不安である。区長や隣組長と連携していきたい」

災害を想定した支援



地域福祉ワークショップ

【しうがい者福祉分野】

「しうがいを持つ人への一般避難所、福祉避難所の周知が不足している。どこに、どのような方法で避難するのか、きちんと検討し伝えていくことが必要だ」

避難情報の
的確な周知

住民アンケート

災害時の備えとして重要なことについてたずねたところ、「自分や同居する家族の避難方法の確認」が55.9%と最も高く、次いで「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」が40.7%、「危険箇所の把握」が32.2%となりました。

問 地震や台風などの災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか

<複数回答>

N=852

